JAC北九だより NO.14

✓ 社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市若松区和田町11-13 大庭 常生(副支部長兼務) 方 Tal 自宅 093-771-4538

昼 093-541-0259

青森支部

発行人:秦野一彦

編集人: 大庭常生·伊藤久次郎

第20回 日本山岳会全国支部懇談会 十和田湖集会の報告

ネパールにかける橋、来年完成!

報告者 13465 大 楠 益 弘

青森県の十和田湖町で開催された第20回 日本山岳会全国支部懇談会に、北九州支部から大楠氏が代表で出席した。以下その結果報告である。

期 日 平成15年9月13日(十)~14日(日)

場 所 青森県十和田湖町奥入瀬渓流

第二グランドホテル

主 催 青森県支部 参加人員 214名

全体懇談会

- 1 講演 「これからの日本山岳会」 会長 平山善吉
- 2 講演 「ネパールにかける橋」 青森支部支部長 榎 保 誠
- 3 報告 日本山岳会百周年記念事業 「白神山地ブナ林再生事業」 青森支部会員 村田幸嗣

1 講演「これからの日本山岳会」の概要

今後の基本方針として登山を通じて文化を語 り合うことを10月中に設定したい。具体的には

- ① 2005年10月の山岳会創立百周年を記念し 各支部を巡回、パネルディスカッションを開催 してゆきたい
- ② 百周年記念として英文ジャーナルを刊行
- ③ 今後の記念式典は各地方に分散して行う
- ④ 大分水嶺登山の実施
- ⑤ 日本人の世界に残した足跡を15コースに分けて尋ねてゆく
- ⑥ 本部のルームを整備する

⑦ 白神山地再生事業の支援 などを推進していくつもりである。

2 講演「ネパールにかける橋」の概要

日本人で初めてネパール、チベットに入国した 河口慧海の足跡を199年来訪ねている。

当地では雪男のミイラ、遺留品などを披露して くれるなど現地の人と親しくなったが交通事情が 劣悪なので、当支部として一番危険な個所に橋を 架けることにした。

橋の構造、材質などに準備がかかり予定より大幅に遅れたが、来年度には鉄製の22年の橋を現地で組み立て40日以上かけて架ける予定である。これを機会に現地の人々との交流を深めてゆきたい。

3 報告 日本山岳会百周年記念事業 「白神山地ブナ林再生事業」の概要

これは山岳会百周年事業の一つとして当支部で 取り組んできた白神山地は屋久島と並び世界遺産 に指定された。

しかしながら指定区域は白神山地の8分の1に とどまっており、その他の区域には関心を持たれ ることが少ない。現状ブナ林が消失した後には杉 の植林がなされているのは残念なことである。

当支部としてはブナ林の保存運動に従来から取り組んできているが、当初9人で始めた事業が農業高校の育苗作業も出来ることになり現在では70人に増えてきている。

広域なので仲々運動が広がりにくいが最近になり青森県森林管理局がブナ林再生事業に着手することになり心強く思っている。我々支部としてもこれからも力を入れてゆきたい。

以上

2004年は阿蘇で会いましょう!

と き 2004年10月2日

場 所 熊本交通センターホテル

第21回全国支部懇談会熊本集会

記念山行 阿蘇高岳又は熊本観光

参加費 18,000円

日本山岳会 平成15年度年次晚餐会

日 時・・平成15年12月6日(土)

受付午後4時 開宴 午後6時

場 所・・東京都新高輪プリンスホテル

参加費・・15,000円

申込み・・11月18日まで

※ 日本山岳会から来た振込用紙で、各 人で申し込むこと。

尚、北九州支部では、晩餐会参加と同時に日本百名山の「瑞牆山」(2230m)と「金峰山」(2599m)登山を計画していますが、登山の参加申込みは9月末で締め切りました。

第 11 回日本山岳会九州 5 支部 懇談会・交流登山の集い

第 11 回日本山岳会九州 5 支部懇談会と交流登山を宮崎支部の主催で次の通り行います。皆様方の多数のご参加を期待しております

○5支部懇談会

期日 平成16年1月17日(土) 14:00~ 会場 宮崎市瀬頭町2-4-5

ひまわり荘(JR 宮崎駅から徒歩10分) 懇談会のあと記念講演と記念パーティ

〇交流登山

期日 平成16年1月18日(日)07:00~ 会場 釈迦ガ岳(830.6m)

最澄も登った霊験の深き山

行程 ひまわり荘 07:00 →綾町経由登山口 08:00 →5合目 09:00 →山頂 10:00 →法華岳薬 師寺・昼食 11:30 →綾町酒泉の杜経由宮 崎駅 14:00 解散。

参加費用(予定)

パーティ 3,000 円 宿泊料 6,000 円 交通費 2,000 円 1 人合計 11,000 円

参加希望者は、北九州支部事務局へ連絡下さい。

会員異動

(H15.9.1以降 10月31日現在)

新会員

支部会員

坂本千佐子 北九 379 山口県厚狭郡山陽町西寄中村 昭彦 北九 380 下関市武久町 1-13-1-202 小石貴代美 北九 381 下関市王喜本町 3-10-10 吉村 保夫 北九 382 下関市笹山町 2-30 中村 周二 北九 383 下関市後田町 4-3-8-304 矢富 博雄 北九 384 下関市彦島本村町 7-2-17

退会

本部会員 野元 禮次 (11756) 支部会員 藤本 輝吉 (北九 215) 木山 忠明 (北九 270)

物故

在籍会員数 本部会員 76 人 支部会員 94 人 合 計 170 人



支部忘年パーティ

催し・ビデオ上映と山の写真展 自慢の写真をお貸し下さい

日本山岳会北九州支部では次の通り忘年パーティを開催します。この1年の山の思い出を、みんなで盃をかたむけながら語ろうではありませんか。

と き 12月13日 (土) 午後5時から 受付 午後3時30分から

ところ 八幡東区大谷1丁目2-4 大谷会館

会 費 5,000 円

申込み 12月5日までに FAX 又はハガキで 事務局長まで申し込んで下さい。 送り先 (802-0018) 小倉北区中津口 2丁目 1-72 小倉紫水会館 長野県九州観光 情報センター 大庭常生宛 FAX 093-551-2375

催し ①ビデオ上映〔午後3時40分から〕 「第57回ウェストン祭と上高地散策」 北九州支部として初めて参加した記 録で、山研の様子も紹介(59分) ②山の写真展

忘年パーティ会場別室で山の写真展 を致します。自慢の山の写真をお貸 し下さい。

山行報告 (9月の山行)

初心者岩登り訓練 好評! (平尾台、唐手岩)

北

支

部

9

月

 \mathcal{O}

Щ

を

岩場を安全に通過するための基礎訓練

n の通 リ 指 訓 9 過 後途 練 す 月 か中ダはを 州 る 28 おこな ための のら飛 F のチ 生はび ル 磯 1 \mathcal{O} n フリ 0 尾基 野 た。 音 参 文 礎 び 台 色 手 入加雄 \mathcal{O} 訓 が 拍り 唐 練 行 を氏ダ 組含の 1 手 は き 岩 2 0 もの \otimes 渡加仲13人板 題 で 人となるが担当。 わ間 初 た。 場 て、 者 0 \mathcal{O} 全 岩 晴 サ 徒 \mathcal{O} 1 登れに



初懸垂下降の宮城氏(ビデオから)

最低限必ず覚えるべき結び方で す。岩場の途中のテラスにザイル をセットし、エイト環による懸垂 下降を行いました。エイト環を落 とさずにザイルをセットする方法 で、各自2回ずつ6m位の岩場を 下降しました。次の機会ではもっ と高さのある岩場で練習したいと 思います。

参加者は岩登りに関しては初心 者でしたが、結構山を登っている ため簡単な岩場は登れました。問

題は岩場の下降です。 ザイルやカラビナ、 エイト環等を手に取 って、使ってみて岩 場でのザイルワーク を是非習得して下さ い。山行の幅が広が ります。

磯野さんに手伝っ て頂き、ザイルまで

提供してもらいました。 あと2人 位のサポートがあればもっと充実 した練習が出来たと思います。そ のためにも支部で是非ザイルを購 入すべきだと思います。

これを機会に会員同志連絡し合 って、今回の様なトレーニングを 行い、ワンランク上の山登りを安 全に楽しんで欲しいものです。

自分のしたい山登りをアピール して下さい。

> 秋晴れの唐手岩に アンデスの風

登山の幅を拡げたい! 宮城尚志

平尾台岩お疲れさまでした。 JAC山行初参加でしたが、和 やかな雰囲気で直ぐにうち解ける ことが出来ました。

大変勉強になった初めての岩登り 訓練、そして青空にひびく「コン ドルは飛んでいく」に感動し、仕 上げの貫山までのトレッキング で、平尾台のすばらしい自然を満 喫することが出来ました。

今後とも、出来る限りJAC山 行に参加して登山の幅を少しずつ 広げていきたいと思いますのでよ ろしくお願い致します。(E メール)

ケーナ生演奏に感謝! 西村俊二・信子

抜けるような真っ青な空、サ ワギキョウの咲く広谷湿原。 平尾台にこだまするアンデスの歌 を BGM にしての岩登り講習。 何と贅沢なことでしょう! 懸垂下降をしているときに「コン

参加者(15人)

CL板倉 健一(13471)

磯野 文雄(13533) SL 伊藤久次郎(13499)

井上 英俊(北九203)

照美(北九362) 佐藤

西村 俊二(13810)

西村 信子(13520) 野中

芳子(北九367) 広美(11990)

宮城 尚志(北九355) 森 さえ子(北九307)

矢山 功(北九262)

涂中参加

吉岡千津子(13812) 吉岡亜津子(北九289) 藤川美久子(13828)

支部にザイルを!

板倉健

9月28日、 好天の平尾台 唐手岩に於い て、登山道の 岩場を安全に



通過するための基礎訓練を行いま した。

予想以上に草が茂り、岩場の取 り付きのアプローチで苦労しまし た。岩場では先ず、8の字結び(エ イトノット)の結び方を、次にテ ープ結びとダブルフイッシャーマ ン結びをしっかり練習しました。



唐手岩横の草原で ライブを楽しむ(宮城氏撮影)

ドルは飛んでいく」のケーナとギ ターとハミング。

平尾台のこの自然にマッチした演 出。偶然の出来事でしたが、演奏 者に感謝!感謝!

そして、広谷山を経由しての貫山 へのハイキング、と盛りだくさん な一日でした。欲を言えば、もう 少し岩登りがしたかった。

また企画して下さい。

(E \(\st - \n \)

山行報告 (10月の山行)

大船山日帰り登山



期 日 10月19日(日)

集合 午前7時50分、瀬の本 三愛レストハウス駐車場

コース 今水登山口®→ガラン台 風穴分岐→前ゼリ→大船山 →段原→風穴·岳麓寺分岐 →前ゼリ→今水登山口 (行程約7時間)

メンバー

CL 高畠 拓生 (13541) SL 原 広美 (11990) 横 山 洋子(13804) 三木 靖子(北九 360) 塩 屋 薫(北九 322) 八木 國子(北九 359) 池 田 暁 彦 (北九371) 山田 武史(北九 378) 中村 昭彦(北九 380) 小 石 喜代美 (北九 381) 藤山辰乃(ビジター) 宝田 安代(ビジター) 励(ビジター) 八木 石川 富子(ビジター) 計14人

サブリーダー原さんの感想

このコースは、地図にも無い急峻 なコースで、急登や急坂が有り一般 的ではないが、結構面白いコースで した。また、全員元気よく、高齢者の 方も健脚で年を感じさせない山行 でした。おかげで 30 分程早く着く ことが出来ました

山行記

九重で一番厳しいルート! 北九378 山田武史

10月19日の大船山は、9月1日 付で入会後初山行でした。男性6名、 女性8名、計 14 名の参加者の内、 チーフリーダー高畠氏、サブリーダ 一原さん以外は初面識。また今回の 今水ルートは、未登行と相まって不 安を期待ないまぜの、そして若干興 奮状態の中で、午前4時我が家を出 発。集合場所瀬の本には1時間も早 く着いてしまった。

参加者全員が幹事側より紹介され た後、今水登山口まで移動し、いよ

いよ 14 名が列をなして登山開始。

先頭は、高畠氏となるがあとは阿吽 の呼吸で順番が出来て行く。この瞬 間がたまらなくいい。私は中程に入 った。

今水ルートは、コース半ばの「前 ゼリ」から急峻が続く。私の持って いた地図には、このルートの記載が ない。聴くと急峻にて一般的でない 故昔の地図にはない由。九重連山の 中でも一番厳しいルートかも知れな い。苦しくもあったが大変良いルー トだった。中でも高度を上げるにつ れ、右手頭上にそびえていた黒岳の 天狗が徐々に姿を現し、やがて対等 に、そして眼下になって高塚までも 展望出来た頃には急峻を終わり、池 を過ぎればその先は大船山の頂上。 出発後3時間。頂上よりの展望は雲 増えつつあるもほぼ良し。紅葉は今 一つ(少し早いか)。

段原で昼食後、一路下山。参加者 の中から「登山家でなく下山家」と の声もあったが、下山は早かった。15 時 40 分下山。(予定より1時間早か った)

道中では「ユキザサ」が赤い実を。 「やぶれ傘」はやぶれ、「マユミ」 もはじけて赤い実が。その他にも沢 山今回同行の皆様から教わりました。 ありがとうございました。

以上



山 Щ

山行報告 (10月の山行)

② 皿倉山(薬草観察登山) (? ?)**ヘクソカズラは屁のニオイ**(> <)

伊藤久次郎 13499



さる 10 月 26 日、毎年恒例の皿 倉山薬草観察登山に初めて参加し ました。正しい名前は皿倉山薬用 植物研修会と言い、主催者は社団 法人八幡薬剤師会です。

当日午前8時30分皿倉山ケー ブル山麓駅前に集合し、係員の方 から説明を受け、3班に分かれて 登山開始です。説明リーダーは、 1班が第一薬科大学の男の先生、 2班は九大の若き男性助教授、3 班は九大薬学部講師で薬学博士の 学位を持ち、そして我が日本山岳 会北九州支部の支部長でもある秦 野先生です。今回おこなわれた薬 草観察登山は、今年で27回目で、 参加者は 150 人位いました。JAC 北九州支部からの参加者は5人で した。私達は第3班につきました。 出発間際に秦野先生は、地面に這 っていた長さ 15 cm位の良く肥え たミミズを指差し「このミミズを 三枚に切って開いて、内蔵をきれ いに出し、干してから煎じて飲む

と大変いい解熱剤薬になる」など、 薬草ならぬ気持の悪いミミズの話 に度肝を抜かれました。1合目か ら歩きながら、「このカズラの葉 をもんで臭いを嗅いでみなさい」 と指示されたのでそのとおりして みると、何とクサイ屁の臭いがす る。先生は「それはヘクソカズラ です」と薬用植物の現物を確かめ

ながらの説明に納得。その他ドク ダミは天ぷらにしたらうまい。ツ ワブキの葉は殺菌力が強いのでケ ガに効く・・などなど、頂上付近 の広場に着くまで百種類ばかりの 薬用植物の説明を受け、秦野支部 長の薬用植物の知識には感心いた しました。さらに薬剤師会が約 200 種類の薬用植物を植えている

約千坪の広さの皿倉山薬用樹木園 も見学しました。最後に参加者全 員が薬用植物の種をもらってお開 きとなりましたので、昼食後関口 さんと山頂まで登って、パラグラ イダーの飛び交う風景を眺めて下 山しました。今回は本当に勉強に なりました。ありがとうございま した。

稲田静代さん(JAC11434) 槍で転落死

産経新聞及び信濃毎日新聞によると、

「9月14日午前9時頃、長野県大町市平の北ア ルプス・槍ガ岳東鎌尾根の通称『水俣乗越』で、 下関市長府浜浦町、無職稲田静代さん(56)が、立 木につかまって斜面を登ろうとしたところ、立ち 木が根本から抜け、はずみで稲田さんが約500行 転落した。午後2時頃県警のヘリコプターで収容 したが、頭の骨を折るなどしてすでに死亡してい

た。大町署の調べによると、稲田さんは登山歴 20 年のベテランで下関山岳会の友人2人とともに入 山、3泊4日の予定で槍ガ岳に登る予定だった。」

稲田静代さんは、93年に日本山岳会に入会、 北九州支部会員でもありました。9月 17 日に下 関市で葬儀がおこなわれ、北九州支部から会員数 人が列席し稲田さんの冥福を祈りました。

第二回目として「冬山の登り方、心構 え」を開催いたします。講師はヒマラヤ 遠征経験者の会員板倉健一さんです。冬 山には独特の楽しさがある反面、一寸の 油断が悲しい事故につながることになり かねません。そろそろ冬山を迎える時期 となりました。奮って参加して下さい。

の山 教

13465 大楠益弘

12月10日(水)18:30~ 日時 場所 小倉北区 紫水会館 キャンプ2会議室

板倉健一氏 講師 費用 200円 締切 12月1日(月) 申込先 当会事務局まで FAX にて (093-551-2375)

講師紹介 板倉健一 氏

このたびは冬山登山教室講師の 板倉健一さんをご紹介いたしま す。板倉さんは又、日本山岳会創 立百周年記念事業の一つである中 央分水嶺踏査推進専門委員として も活躍中です。板倉さんは、1949 年生まれで、22歳で門司山岳会に 入会。主な山歴は

1973年8月 屋久島単独縦走 1978 年4月 インドヒマラヤ登山隊 参加(ナンダデヴィ 東峰 7434m)

や、北アルプス全域縦走などがあ り、22 歳から 20 年間にわたって 毎年冬季の伯耆大山に登っていま す。そして今年2月、10年ぶりに 大山に帰ってきました。

木工事を盛んにすると民せる。このように君主が 景気が悪くなると、 むようになる。 は労働につかれ、 -ディール政策になら現代ではアメリカの ように君主が十 君 主を恨 1)

(大修:

館

書 店

· 山

の 格 故 事

木が茂って日陰となり養分は、草木は生えない。常緑は、草木は生えない。常緑は、草木は生えない。常緑 険しい地勢の荒りになること〉。 い取 地勢の荒れた土 で、

人民は疲弊し君主を恨むと〈土木工事を盛んに行うと、 峻 土地がや 原 は、 **(6**)

なる。たとえば古代中国をれ、働けば働くほど豊かに働くことにより賃金が得ら れたところにある。いう二重の負担を背 働は労役 秦と運河の工事を行った随 みると、大土木工事 工事と自分の田 ど支給されず、 いず の違 声が 万里の長城を建 \mathcal{O} が盛んになる。 ため、 一重の負担を背負わさ き高まって、 いは、 (労働力の無償奉 賃金はほとん 畑の 国民は土木 古代では労 現代は 古代と 建設した 耕作と 土木

Ш 峻 原 は 草木· を生

研究・或る落石遭難事故

13465 大 楠 益 弘

これは、筆者のごく身近で起こった事故である。関係者は、現存しており、又山岳会の名についても、支障があるので、それぞれを仮名とした。以下当時の記録を基に記述してゆく。

昭和〇〇年5月14日、土曜 日の昼下がり。特別出勤の行員 もすでに退行して、銀行の大ホ ールは、ガランとしていた。背 広の袖に腕を通し、田中実は帰 り支度をしていた。と、突然電 話がけたたましく鳴った。田中 は習性で受話器に飛びついた。 先輩の西広の少し上ずった声が とびこんで来た。西は銀行山岳 会の幹部である。行員が谷川岳 で遭難した。即死らしい。対策 本部を設置する。すぐお茶の水 支店まで来て欲しいという内容 であった。田中は、地下室のロ ッカーに常備している山靴、ウ ールのシャツ、セーターなどを 身に付けザックを背負い、ハン チングを頭にした。守衛室への 挨拶もそこそこに支店を後に し、三越前の客待ちのタクシー を拾った。待ち構えていた西広 の顔は、心なしかこわばって見 えた。15 時 30 分、群馬県警か ら、遭難の報せがあり遭難者所 属の、お茶の水支店に対策本部 を設置した。山岳会員に連絡を 取っているが、土曜日とあって それも難しいと言う。装備担当 との交信も出来ず、厚生部収納 庫の鍵が入手出来ない。やむな く西広は、不足すると思われる 用具を、上野の片桐用具店へ発 注することにした。徒に時が経 つ。何時の間にか列車の発車時 刻が迫って来ていた。20 時を過 ぎ、メンバーが続々と駆けつけ て来る。情報不足の所為か、い ら立ちの表情が見立つ。西広は

知り得た情報を、メモを手に読 み聞かす。上野駅へ直行する者、 約6名。新潟行きに乗る様、西 広が指令する。万が一に備え、 友好団体秀峰山岳会3名に応援 を要請する。タクシーに分乗。 お茶の水から上野駅に向かう。 報せを受けた家族の気持ちは、 いかばかりかと、車中の田中ら の心は重い。上野駅発、23 時 58 分。気は高ぶりうつらうつらし ている内に田中らは、4時58分、 土合駅着。睡眠不足のまぶたは 鉛の様。地下道を通り、土合山 ノ家へ向かう。総勢 14 名。未だ 夜の明けやらぬ小屋の扉は冷た かった。警備隊本部、山ノ家主 人から聴取した遭難現場の模様 は、次の通りであった。

遭難者、谷恵子(お茶の水支 店 33 歳)、同行者小川正之(品 川支店) = 2人とも非山岳会員。 上記2名は5月13日(土)、上 野駅発。14日、早朝。上越線土 合駅着。谷川岳マチガ沢に入っ た。快晴、気温高め、例年にな く残雪が多く、出合(合流点) の少し上流の旧国道付近から、 残雪があり、頂上まで雪渓にな っていた。この沢は東面の沢の 内でも比較的楽に登れるコース となっており、所要時間も3~ 4時間である。スキーヤーにも なじめる沢なので、2人も此処 を選んだものと思われる。午前 6時、出合を出発。天候に恵ま れ、頂上間近の要の滝上部付近 (C4) まで登った時(11 時5 分)、落石があった。小川さんは 直ちに谷さんに警告を発したが、 30 cm大の岩石は小川さんの頭上 を飛び越し、約 100 m下を登っ ていた谷さんの前頭部に命中し た。暫く足から滑落していった が、1,2回バウンドした後、 頭を下にして約700m滑り落ち、

以上が山ノ家で知り得た情報で あった。隊長の戸坂修は協議の上、 次の決定を下した。隊長は対策現 地本部として、土合山ノ家に留ま る。田中実は、現地情報を知らせ るべく、東京に戻る。残る 12 名 は、遺体収容に向かうこと。田中 ら隊員は用意された握り飯をほお ばる。表情は堅く、味は砂を噛む 思い。12名は装備を点検。オーバ ーズボンをはき、アイゼンをザッ ク上部に詰める。曇天のためか朝 の冷気は厳しく、隊員の気は張り つめ、眠気は記憶の彼方となる。 6時30分、土合山ノ家を発つ。遭 難者のパートナー小川氏は、後始末 もあり、山小屋に残留。別に遺族の 一人に同道して貰う。

以下、報告書の下敷きともなる、 副隊長西広の遺体収容の手記に基 づき、時間の経過を辿ってみる。

コースタイム~土合山の家6: 30 -マチガ沢出合7:15 -三ノ 倉沢出合8:00 ~8:50 ーマチ ガ沢出合9:45 -検死 11:00 マ チガ沢出合 07 時 15 分。マチガ沢 は旧道から 100 m上部は、雪渓と なっている。S字渓周辺は千人近 いスキーヤーで賑わっていた。こ の沢では各山岳部パーティがグリ セード、ストップの訓練を行って おり、元気の良い掛け声を耳に、 我々は黙々と歩を進めて行った。 三ノ沢の広い雪原に出ると、展望 が拓けマチガ沢本谷が真っ直ぐに 突き上げ、頂上が望まれた。三ノ 沢の出合右側のブッシュ帯に、遺 体はあった。滑り落ちない様に、 ザイルでジッヘル(注)してあっ た。顔は白い布で被われていた が、血が滲んでいた。異様な程 に白い手が目に焼きつく。一同 黙礼。白い布の下の顔を、遺族 に確認して貰う。遺体をシュラ フに収納。隊員らによってグラ ンドシートでさらに包まれ、ザ イルで結束される。アイゼン装 着の隊員らによって、ザイルは 捌かれ、静かに滑り降ろされて 行く。落石が時折、無気味な音

を立て耳を過ぎる。雨しきり。11 時、マチガ沢小屋に安置。県警 本部3名、医師により検死。検 死後身体を拭き清め、家から持 参の着物に装いを改める。よう やく到着した棺に納められ、遺 族の待つ土合山ノ家向け出発。 雨、益々激しくなる。山ノ家は 断念し、水上の葬祭場に、直接 向かうことにする。

西広の手記は、此処で終わっ ている。この手記は、隊長、田 中実らにより、加筆修正の上後 日、本店厚生部に報告書として 提出されることになる。

マチガ沢落石遭難事故の記録 はこれで終わる。

次回は、西広による事故情勢 分析、発生原因究明を展開、筆 者の若干の補足、私見を挟み、 以て他山の石としたい。

注 ジッヘルング Sicherung 〈G〉 →確保

(世界山岳百科事典より)

山行計画のご案内

12月の山行

① 日本百名山「瑞牆山」と 「金峰山」 (2230m)(2599m)

(2ページの日本山岳会年次晩餐会と「瑞牆山」 ・「金峰山」登山に同じ)

② 第1次伯耆大山冬山合宿

瑞牆山・金峰山や年次晩餐会に参加が傾いたた め、第1次伯耆大山は中止いたします。

1月の山行

霧氷と菜の花の里へのお誘い

霧氷の韓国岳 (1,700m) と 薩摩富士の開聞岳 (922m) へ

自然の芸術品霧氷で化粧された韓国岳そして春を告げ る菜の花の里、日本百名山の開聞岳、楽しみませんか。 まだ定員には、余裕がありますので奮ってご参加下さい。

日 平成16年1月24日(土)~25日(日)1泊2日

合 小倉駅北口広場午前7時

交 通 マイクロバス予定 22名限定

行 程 1月24日小倉→えびの高原→韓国岳→えびの 高原→国民宿舎かいもん荘(泊)

1月25日 かいもん荘→開聞岳→かいもん荘

(入浴、昼食) →池田湖→小倉 携行品 24日の昼食、雨具、防寒具、手袋、テルモス、

行動食、ヘッドランプ、アイゼン、地図、 コンパス、その他

費 用 14,000 円前後+25 日昼食代

リーダー 大楠益弘、西村信子

申込先 西村信子 〒824-0121 京都郡豊津町豊津1100-3 ハガキ又は Fax で

Tel (Fax) 0930-33-4618

締 切 22名で締め切ります

2月の山行

伯耆大山冬山合宿

平成 16 年 2 月 13 日(金)~17 日(火) 日

交 通 西鉄夜行バス利用(往復)

用 20,000 円程度(山岳保険料を含む)

装 備 冬山完全装備

山行内容 冬山基礎技術訓練、雪山でのテント生活の仕方等

参加人数 8名

申込締切 平成 16年1月10日(土)

申込先 〒801-0851 門司区東本町 1-7-28-201

板倉健一區(会社)093-331-1031

(自宅)093-321-1038

申込方法 ハガキ又は FAX093-331-1032

3月の山行

鳳翩山 (742m) (山口県)

期 日 未定

集 合 JR門司港駅前午前6:50

交 通 マイクロバス予定

募集人数 22 人限定

コース 二つ堂登山口…東鳳翩山…萩往還道…登山口 申 込 先 横山洋子 〒 751-0844 下関市新垢田西町 1-3-3

ハガキ又は FAX 0832-53-3031

と**カ**るで花県 。**ラ**人の崗の第 je **忘 陶**j 一次伯耆大山冬 で、 大岳で忘年登二 の岩登りゲレン レーニングの続 りしない人は同 別のKです。 別のKです。 ルース・へ がしない人は同 カーネス、へ がしない人は同 カーカールは同 のおきない。 月 ~ 20 山 ~ の続きをしませいがです。平山を行いませい。

リンジ

の環り手岳山

年 ケ゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 푐 亦 板

テ 12 登 岳 頁の山 泊金お品 誘! ي غالم الم 個 ラ日へ 目 人 山 行

世 板 は各 が し な を は る た 倉自ユ Fax093-331-1032 \mathcal{O}

~冬の信州を語る集い~ 冒険スキーヤー



三浦雄一郎 来たる!

講演と長野県スキー場だより

今年、70 歳で、エベレスト登頂という偉業を成し遂げた三浦 雄一郎さんが、この貴重な体験と、世界七大陸最高峰からのス キー滑空を達成した、挑戦の人生を語ってくれます。

同時に、スキーのメッカ長野県から、今年のスキー場ホット 情報や、アフタースキーの楽しみなど等、お得な情報をお届け します。 どなたでも参加できます。



第1部

長野県下スキー場からのお便り 「志賀高原、野沢温泉、北 アルプスエリアの冬を楽しむ」 をテーマに現地スタッフか らのお話。

第2部

映画「地球を滑った男」〜 世界七大陸最高峰からの滑降 三浦雄一郎氏講演 「未知への挑戦」

その他

○三浦雄一郎著書サイン会 (17:20~17:50) **時** 12月1日 (月) 18時00分 ~20時20分 (17時開場)

会 場 小倉北区 北九州国際 会議場メインホール・ イベントホール

参加費 1人500円(当日) 中学生以下無料

参加要領

住所・氏名・電話番号を 明記の上、FAX で5名まで 連名可。先着600名。

問い合わせ

北九州市小倉北区中津口 2 丁目 1 - 72 小倉紫水会館 長野県九州観光情報センター宛 電話 093-541-0259 FAX 093-551-2375

参加者全員にりんごプレゼント! 会場内で、信州ワイン・リンゴジュース等のサービス!!

主催 長野県観光協会等 共催 北九州市 後援 日本山岳会北九州支部

57 D >

支部では、毎月第4水曜日の夕方、杯をかたむけながら山の話などを話題にして、だべっています。どなたもどうぞ気軽においで下さい。

11月のサロンは、26日(水) 12月のサロンは、24日(水) です。

時間 午後6時30分から 場所 小倉北区魚町「コール天」

> (魚町銀天街、料亭武 蔵より西へ約 50 m)

費用 3,000 円前後

(ワリカン制です)

編集後記

○今年3月九重に登ってい以 来、8カ月ぶりに法華院温泉 山荘の湯に浸かりに行ってき ました。

近ごろリニューアルオープンしたもので、木の香りもする広々とした浴室は、山小屋の温泉とは思えない豪華なものでした。

浴槽からは真正面に大船山がどっかりと見えます。されに広いベランダまであり、裸で外に出られます。女性風呂も同じように壁で仕切られたベランダがあり、大船山から双眼鏡でのぞく楽しみがふえ

ました。

以前の浴室は、築 50 年で老 朽化、いつ天井が落ちてくるか 心配だったと社長の話。元の浴 室の場所に新しい談話室が出来 ていました。

明くる日は秋晴れの中、のんびりと坊がツルでスケッチなどしながら下山しました。お後がよろしいようで。

(伊藤Q)

〇山の原稿(山行記、感想、山の随想・・・等何でも)は田川市西 平松 11-8 〒 826-0032 伊藤久次郎 までお送り下さい。方法は郵送、 FAX、メール、どれでも結構です。 出来ましたら写真も一緒にお送り下さい。

Eメールは、qito@mx71.tiki.ne.jp 電話・Fax は、0947-42-2772